

目 次

第50回暁烏記念式・記念シンポジウム「仏教文学と文献利用」開催報告.....	2
「暁烏文庫と父、松本唯一」松本崧生名誉教授（理学部）.....	4
図書館のトピックス	
総合科目「大学図書館への招待」71名が単位を取得して無事終了.....	6
金沢大学見学会で、夏休みの高校生たちに図書館を開放.....	6
検索コーナーにパソコンを増設・情報コンセントが登場.....	6
医学部で洋雑誌の所蔵データを遡及入力開始.....	7
保健学科図書室、来春に新築棟へ.....	7
利用可能なオンライン・ジャーナル 当館ホームページで随時紹介中.....	8
としょかん日誌（1999年6月～8月）.....	8

「蔵書散策」は今回は休みます。



今年の暁烏記念式は1950年からちょうど50回目でした。そこで記念シンポジウムが開催されました。（6月18日。2～3ページに記事）

80名が参加，文庫の価値を再確認しました

第50回金沢大学暁烏記念式・記念シンポジウム 「仏教文学と文献利用」開催報告

今年度の金沢大学暁烏記念式が6月18日午後，角間キャンパスの大学教育開放センターで行われました。この式典は，松任市出身の仏教哲学者暁烏敏（あけがらすはや）師からその個人蔵書約5万冊が本学の創立期に寄贈されたことを記念して始まり，50回目の今回は記念シンポジウムも開催されました。

師の孫にあたる暁烏照夫氏をお迎えした式典に続き，立教大学文学部の小峯和明教授による基調講演があり，その後，小峯教授，本学の文学部木越治教授，教育学部山本一教授をパネリストに迎え，附属図書館橋本哲哉館長の司会で「仏教文学と文献利用」をテーマに記念シンポジウムが進められました。

以下に，基調講演とシンポジウムでの発表の要旨を報告します。（まとめ：広報委員会）

基調講演

寺院の文庫と海外流出資料

小峯和明 立教大学文学部教授



和古書は，活字以前の資料，例えば写本や版本が対象であり，古文書とは異なる。あくまで書物としてまとめられているものを言う。和古書については，まず，「国書総目録」「古典籍総合目録」という活字以前の書物の総覧に載っているかどうかを調べる。

寺院の文庫を中心に紹介すると，天台宗の場合，比叡山延暦寺には叡山文庫があり，データベース化と，奥書を集めたものの出版が進められている。西教寺（さいきょうじ）の正教蔵（しょうきょう

ぞう）や，早稲田大学の教林（きょうりん）文庫，仙台の仙岳院にも貴重な資料がある。

教林文庫の重要な部分を写した叡覚（ごんかく）という学僧の写本を，仙岳院で見つけた。叡山の本が仙台まで旅をしたということである。

真言宗でも，天台宗と並び，資料が多く集められている。高野山を始め，各地の真言系の寺にも多く残されている。

本好きな人が必ずいて，そういう人が資料を集め，そこには資料が残るものである。調査に行くと，そういう過去の人とのつながりというものを感ずることができる。資料をみていて面白いのは，意外なつながりを見つけること，また，関心のある資料を見に行ったらときに思わぬものを見つけ，そこから別のテーマが出てくることである。資料に導かれるテーマと言える。

資料の海外流出について触れるが，流出という言葉は適当ではない。意識的に流れたものもある。イエール大学図書館やワシントン議会図書館に朝河貫一という人のコレクションがある。ここにも叡覚の名のある書物があった。また，アイルランドのダブリンのチェスタービーティライブラリには，日本の絵巻と絵本のコレクションがあり，貴重な絵巻や絵本も多い。

日本の図像学はかなり遅れており，日本では絵

というものが研究対象になってこなかったが、テキストにある絵・挿絵を集めて自由に見られるような体勢が望ましい。

私が専門にしている今昔物語集の鈴鹿本を京大では電子テキストにし、すべて見られるようになっていっている。金沢大学でも是非そういう努力をされてはいかがかと申し上げたい。

シンポジウム「仏教文学と文献利用」



参加者と質疑応答するパネリスト。左から、橋本館長（司会）、小峯教授、木越教授、山本教授。

発表

暁烏文庫のデータベース化に携って

木越治 文学部教授

暁烏文庫にある本で、国書総目録に載っていないものがあるのは、きちんとした暁烏文庫の目録がないからではないか、と思っていたところ、科学研究費でのデータベース化を進めることになった。苦労したのは業者に渡すデータをどう作るか、ということであった。

問題になったのは、「和書」の範囲である。当初は「活字本でないもの」であったが、途中から「和装で中味が活字のもの」も対象にすることに变更したところ、データシートの記入が増えてしまった。業者には入力範囲の選択は無理であるため、どう対処するのか、という当初は予想していなかったことが問題になった。

現在、四苦八苦しなながらデータベース化を進めているが、しかし、公開されれば全国の研究者が利用できるようになるだろう。できれば、冊子目録を出すことを希望している。

発表

暁烏文庫と日本文学研究

山本一 教育学部教授

中世文学を中心に日本文学の研究というのは、文学の内容だけでなく、その周りの領域、特に注釈への関心が大きい。注釈作業との関係で、宗教的な教理・儀礼への関心など、今までのジャンルを横断する注釈への関心が高まってきた。今は、書物に対して包括的な視点が必要だという意識がある。

中世文学の立場から暁烏文庫について述べると、暁烏文庫は包括的な文庫を志向しているように思える。仏教書が多いのは勿論だが、各宗派について収集されており、その総合性が日本文学研究の流れから見て、興味深いものと感じられる。

広く公開されることにより、暁烏文庫にある版本のような貴重な書物が研究対象になっていって欲しい。

会場には学内外から約80名の参加者が集まり、総合科目「大学図書館への招待」の受講生の姿も目立ちました。また、質疑の時間では、データベース化作業への要望や、暁烏敏師と南方熊楠（みなかたくまぐす）の書籍収集法の比較などの話題が出て時間ぎりぎりまで盛り上がり、50回目にふさわしい記念式となりました。

なお、暁烏文庫は中央館保存書庫で利用でき、洋装本については蔵書検索システム（OPAC）でも順次検索が可能になりつつあり、和装本は科学研究費によるデータベース化が進められています。

曉烏文庫と父，松本唯一^{ただいち}

松本^{たけお}崧生

名誉教授(理学部)

金沢大学に奉職してまもなく曉烏文庫の存在を知った。曉烏先生は、たびたび我家にもいらした、あの偉い眼の悪いお坊さんではないかと云う幼少の記憶がよみがえりつつも、丸ノ内時代は不覚にも文庫に接することもなく過ぎ去った。20年を経て大学が角間町に移ってから、中央図書館を利用することも多くなった。曉烏文庫は専門の欧文誌のそばに設置されていたので、折りにふれてかいま見ることになった。意外にも理系の書物も多く、曉烏先生の博識ぶりに感嘆を覚えた。更に驚いたことに、あるとき、父の名を付した本をみつけた。それは今まで見たことのない父の考案による鉱物学の教科書らしきものであった。奇しくも金沢大学創立50周年記念式の際、図書館長橋本哲哉教授にこの話をしたことがきっかけで筆をとることになり、改めて曉烏先生と父との関係を調べ、考察する機会を得た。図書館専門員梶井重明氏のお力を借りて改めて見つかった父に関する本を列記してみよう。

[]「河村幹雄博士遺稿」河村幹雄博士遺稿刊行会編。昭和8年3月(1150頁)。【写真1】

この膨大な本の冒頭に「曉烏先生 松本唯一 昭和8年5月15日」の墨述が見られる。再販要望が多かったもので、その一部分が昭和9年5月河村幹雄博士遺稿「名も無き民のころ」(長男河村英雄編)として、岩波書店から出版された(これも文庫にある)。河村幹雄博士(地質学)は、九州帝国大学教授を勤められた。父は一高学生時代から、兄彦七郎と一高での同期の河村先生の影響を受け、専攻を電気工学から地質学に変更した。河村幹雄は教育の重要性を主張し、思想問題は別にしても、現代でも通じる所がある。

[]「大阿蘇の新研究」松本唯一(明治専門学校・九州帝国大学教授)

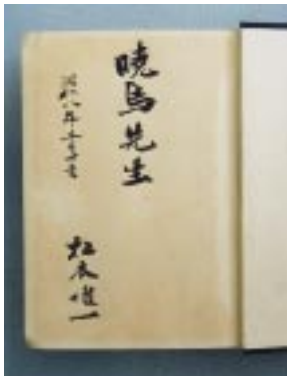
熊本地歴研究会。昭和7年2月発行(170頁、大付図4、)

昭和6年、唯一が阿蘇山にて昭和天皇に御進講し、熊本で「記念講習会」が催された。それをもとに執筆され、熊本地歴研究会で出版されたものである。父は明専、九大の講義、実験が終わると、早速地質調査に出かけ、成果発表も惜しんで唯一人で九州の火山発達史の研究を続けた。地質、火山から説き起こし、日本の地帯構造概略、九州の火山地質概略そして阿蘇火山の研究が紹介され、興味深い。私的なことであるが、昭和6年の父の写真も付されて居り懐かしさも一入である。部数も少なく、貴重なものである。

[]「The Four Gegantic Caldera Volcanoes of Kyushu .」 by Tadaiti MATUMOTO , National Research Council of Japan , Japanese Journal of Geology and Geography , Vol .XIX ,Special Number ,Tokyo ,October , 1943 . (57頁 + 20図 + 33図版 約200頁)【写真2 , 3】

「恭呈 曉烏先生 昭和24年5月23日 松本唯一」と父の筆記がみられる。それまでの「九州の四つの巨大カルデラ火山」研究成果を総括したもので、麻生太賀吉(吉田茂の娘和子の婿)の援助で、日本地質学地理学刊報の特別号で出版された。

この英文による大論文は全世界で紹介され学会教育界にも影響を与え、またこの学説は旧来の阿蘇観を根底から覆えして国定教科書の一部を改訂させたものである。現在では想像すらできないことだが、戦時中に記されたため、出版前、軍の検閲(特に陸軍省は厳しい)で地質調査の生のデータ入りの地図類の多くが、許可されぬばかりか、使い物にならないよう墨で消され没となった。終戦混乱時を経て、6年後にやっと曉烏先生にさしあげることができたのであろう。



【写真1】『河村幹雄博士遺稿』
(写真1～3はいずれも当館暁鳥
文庫所蔵資料)



【写真2】『Japanese Journal of
Geology and Geography』
19巻特別号



【写真3】19巻特別号見返し部分。

尚前述した鉱物学の教科書らしきものは、梶井氏のお手を煩わし今回改めて探したが、残念ながらカードさえも見当たらない。長兄は父が中学の教科書を作りかけたような気がするといっていたのでその試本だったかもしれない。今となっては幻の本となった。

冒頭に述べた様に暁鳥敏先生は私の幼少時から、わが家の大切な客人であった。しかし先生と父との接点をはっきり確かめぬままに父母は他界した。今回、野本永久著「暁鳥敏伝」や、暁鳥敏全集によって判明したことによると、それは今川覚神に負う所が大きい。今川先生は、暁鳥敏先生が若い時から師と仰ぎ、大正3年(1914)、37歳で再婚された総子夫人(当時21歳、母、多は金沢常福寺出)の岳父であった。明治29年(1896)、真宗の宗門改革の折り、生活、運動費調達のため、改革運動家の一人として今川覚神は熊本の中学済済龔に単身赴任した。かつて、島流しもそう長くあるまいと言った今川覚神(数学)は、熊本から戸畑へ移り、明治40年(1907)安川敬一郎、松本健次郎が前東大総長山川健次郎に建学理念を一任し設立した明治専門学校(現九州工大)に勤め、遂に一生九州を出なかつた。

父唯一は、大正10年(1921)明治専門学校教授となり、校内の官舎に居を定め、同じ官舎住まいの今川先生と親交を得た。暁鳥先生と明治専門学校とは、浅からぬ因縁があった。昭和2年(1927)暁鳥先生の初めてのインド、欧州等旅行のおり、ベルリンとその近郊(5/18-22, 6/25-27)を案内した大塚明朗教授(物理学、後、東京教育大学光学研究所長)も、明治専門学校での知り合

いである。1912年の暁鳥敏先生の初めての九州説法旅行は覚神の居る戸畑を振出に行なわれた。以後毎年、戸畑の今川先生を尋ねられる。多分父母は戸畑時代当初より、今川先生を通じて暁鳥敏先生との知遇を得たのであろう。

暁鳥敏先生は真宗哲学のみならず専門以外のことにも通じておられその博識ぶりには目をみはるものがあった。両親も多くの事に興味をもち、有志の方々と万葉集、古事記などの輪読もしていたし、また母の父、平井金三は1893年のシカゴにおける万国宗教会議にも出席した汎宗教家ともいえる人だったので、宗教的な話題でも共鳴し、会話もはずんだであらう。

暁鳥年譜をみると、昭和10年(1935)戸畑での宿は松本唯一方とあり、以後昭和19年(1944)秋まで続いている。昭和11年(1936)、今川先生が亡くなられ、戦後熊本へ転勤するまで、父が戸畑での世話役をした。尚「今川多刀自を送る」という父の長歌が残っている。暁鳥日記をひもといて見たが、眼を患われたためか昭和10年代以後肝心な日記は存在しない。そのため記録が殆ど無く残念である。もし手懸になることがあれば、ご教示お願いしたい。

尚蛇足ではあるが、明専卒業生故藤田哲也シカゴ大学名誉教授(1998.11.19逝去)の最終論文「Mystery of El Niño and Hurricanes」(98 Jan.)を図書館に寄贈した。藤田氏は父の許で地質学を修め、戦後アメリカへ渡り、気象学、特にトルネード、ダウンバースト研究で世界の第一人者となった。明治専門学校に所縁あるものとして付記する。

図書館のトピックス



総合科目「大学図書館への招待」 71名が単位を取得して無事終了

総合科目
「大学図書館への招待・み
ずから学ぶ、
図書資料を楽しむ」(平成
11年度前期課
程)が終了し
ました。



図書館電算室も見学しました。

受講希望者は133名(うち1年生は106名)あり、
抽選の結果79名(うち1年生は62名)が受講登録
しました。3回のレポート提出(うち1回は随意)
が課せられ、単位取得者は71名でした。

今年は、図書館を会場にした授業ではパソコン
を使った検索実習の時間を多くし、図書館や資料
館の見学の時間も多くしました。また、授業の期
間中に開催された「暁烏記念講演・シンポジウ
ム」に参加された方たちは、「古い本“古典”」
に対して大いに興味を持たれたようです。昨年と
は少し違ったこの授業の成果を生かして、図書
館を使いこなしてください。

書庫に入ったことのない方、OPACを使ったこ
とのない方、論文検索をしたことのない方・・・
レポート提出の前に、卒業論文準備の前に「図書
館の使い方」にトライしてみてください。質問な
どは、図書館カウンターへどうぞ。(参考調査係)

金沢大学見学会で、夏休みの 高校生たちに図書館を開放

夏休み中
の8月4日、
金沢大学見学
会(いわゆる
オープンキャン
パス)が開
催され、図書
館中央館でも



図書館の特長を貼り出しアピール。

来館歓迎のポスターを掲示したり、この「こだま」
を配布したりして高校生たちに自由に図書館を見
学してもらいました。

当日は大変な猛暑で、蒸し暑い図書館となり
少々気の毒でしたが、フレッシュな高校生たちが
たくさんやってきて、珍しそうに館内を見学して
いました。経済学部志望者対象のキャンパスツ
アーには図書館と資料館も組み込まれ、館内の説
明をさせていただきました。また、先生が高校生
たちを引き連れて来館され、書庫をお見せするこ
ともありました。さて、図書館への印象が入学動
機により影響を与えるかどうか、気になるところ
です。(資料サービス係)

順番待ち行列を解消へ 検索コーナーにパソコンを増設

ノートパソコン持ち込み歓迎 情報コンセントが登場 (中央館)

9月末に情
報機器が新設
・増設されま
した。

検索コー
ナーのイン
ターネット用
パソコンを5



検索コーナーのスペースも拡張。

台増設して合計10台にしました。現在の需要では10台でも行列ができてしまいそうですが、当面は混雑がかなり緩和されるはずですが、当面は混雑がかなり緩和されるはずですが、当面は混雑がかなり緩和されるはずですが、

当館には今まで利用者用の情報コンセントが全くなく、情報利用環境の整備が遅れていましたが、2階窓側のキャレルに8ポート分の情報コンセントが、



Windows でも Mac でも OK です。

また3階に4ポート分の情報コンセントが新設されました。ご自分のノートパソコンを持ち込んでインターネット利用が可能になります。学内LANへの接続はDHCP方式ですので、パソコン側は簡単な設定をするだけで接続できます。

なお、ネットワークのセキュリティ確保のため、情報コンセント利用にあたっては必ず、備え付けの「金沢大学ネットワーク接続申請書」を図書館カウンターへ提出してください。その際、ご自分の機器のMACアドレスが必要です。

(電子情報係・資料サービス係)

医学部で洋雑誌の所蔵データを 遡及入力開始。 貸出手続きなどが便利に

7月から医学図書館所蔵資料の遡及入力が始まりました。これは、所蔵情報の電子化を図るものです。第一段階として医学部で利用の多い洋雑誌製本分について作業を行い、8月末現在で約27,000冊が入力されました。順次、和雑誌製本分、図書の入力作業を進めていく予定です。



入力が完了 データ入力し貸出用ラベルを貼ります。

した資料は、今まで雑誌貸出の際には必要だった借覧証への記入手続きを省略して貸出が可能となります。また、資料貸出状況のOPACからの検索も可能となります。資料の表紙下方に10桁のバーコードラベルが貼られているものが入力済のものです。

ラベルが貼られていない雑誌の貸出につきましては、当面、今まで通り借覧証への記入をお願いいたします。なお、未製本の雑誌につきましては、今後も入力の予定はありませんので、貸出の際には引き続き借覧証への記入をお願いすることになります。

(医学部分館)

保健学科図書室、来春に新築棟へ 年度末までは体育館へ仮引越し

医学部保健学科図書室(鶴間キャンパス)は、約半年間小立野体育館第一トレーニングルーム(同じ



3月までこの体育館で業務をします。

キャンパス内)を図書室に、体育館旧教室を事務室として業務を行うことになりました。

これは現在建設中の3号館1階に約350平米の新図書室が来年3月に完成する予定であり、旧図書室跡は看護学専攻の実験・実習室になりその改修工事が並行して行われるためです。

8月16日～9月10日まで業務を一時中断し、書籍の梱包作業・運搬等の大移動を行いました。学生・教職員・大学間相互協力に影響を及ぼさないよう配慮しましたが、仮の書庫には全資料の配架が困難なため、全資料の3割程度を箱詰めすることになりましたので、多少の不便はおかけすることになります。

業務は9月13日から再開しました。新図書室でのオープンまで何かと不便をおかけしますがご協力のほどお願いいたします。

(医学部保健学科図書室)

利用可能なオンライン・ジャーナル 当館ホームページで随時紹介中

「電子ジャーナル」は、スタンド・アロン型とネットワーク型に分けられますが、ここではネットワークで学術雑誌を利用する場合に「オンライン・ジャーナル」という名称を用いることとします。

学術雑誌の発行元である学協会・出版社等が電子化した雑誌の情報をインターネット上で提供していますが、利用の形態や収録範囲も発行元、雑誌によって様々です。

一般に、オンライン・ジャーナルは、1. 場所、時間に関わらず利用、2. 複数の利用、3. ファイリングの効率化、4. 検索機能の拡大、5. 保存のための費用・スペースの削減というメリットがある反面、1. 供給までの時間、2. 画像の品質、3. 情報流通に対する制限の可能性、4. 掲載論文の信頼性管理と学術研究成果の固定化不安、5. 契約期限を過ぎると利用出来ない、6. 費用の増大、7. 相互利用サービス等の問題点も残されています。

オンライン・ジャーナルの利用には、直接海外出版社等のホームページにアクセスできるものもあり

ますが、出版社にライセンス契約を申し込まないと利用出来ないもの、あるいは、購読者が購読番号等でオンライン申し込みをして利用するものと様々です。中央館では、このライセンス契約を申し込む必要のあるものについて手続きを行い、現在学内研究者に提供しているところです。

そして、電子ジャーナルの出版・契約の形態そのものが、現在試行から業務ベースへの移行期でもあり、出版社や提供者の戦略も異なり、安定した利用環境ではないため、本学で利用可能となったオンライン・ジャーナルから順に、附属図書館のホームページで、利用案内していきますので利用者の皆様のご理解をお願いします。

なお、当面は雑誌の冊子体購読に対応して無料で提供されるものとなりますが、将来的には有料化されるものもあると思われ、複数の同時利用を生かし重複購入を回避する手段として導入効果を計る必要もあるでしょう。（雑誌情報係・電子情報係）

詳細情報は当館ホームページの「掲示板」に掲載されています。

<http://www.lib.kanazawa-u.ac.jp/>

としょかん日誌 (1999年6月～8月)

- 6月2日 中堅職員研修会(人事院)守本瞬(図書情報係)～4日 受講
- 6月8日 平成11年度第1回自己啓発講演会(事務局)岡本真由美(総務係)、中条康純(電子情報係)、宗近美佐子(参考調査係)受講
- 6月18日 第50回暁烏記念式開催
- 6月23日 第46回国立大学図書館協議会総会(仙台国際センター)橋本哲哉(図書館長)、青山弘(事務部長)、金井晃(情報管理課長)出席、越野正勝(図書館専門員)、梶井重明(図書館専門員)視察、松原美重子(参考調査係)事例発表
- 6月24日 金沢地区大学図書館協議会定例会議(小松短期大学)、小川恭弘(資料サービス係)出席
- 7月1日 金沢大学新規採用職員研修会 越野正勝(図書館専門員)、梶井重明(図書館専門員)講義

- 7月22日 新CAT/ILLシステム講習会(京都大学)押見智美(図書情報係)受講
- 8月4日 金沢大学見学会開催
- 8月25日 平成11年度図書館等職員著作権実務講習会(岡山大学)小川恭弘(資料サービス係)受講
- 8月30日 平成11年度北陸地区国立大学附属図書館会計担当者会議(富山大学)杉本美子(図書情報係)、橋美穂(雑誌情報係)出席

編集後記

8月のある日、東京の学生さんが、夏休みで帰省したのを活用して中央館にやってきました。その学生さん、「ここはとってもすばらしい図書館です!」と大層感激して帰っていきました。実際には課題山積ですから対応した私はうれしいのが半分、とまどいが半分。でもとにかく図書館は前進します。この号にもサービス改善のニュースを載せることができました。(編集担当 資料サービス係小川)

金沢大学附属図書館報「こだま」第135号

発行：金沢大学附属図書館 編集：広報委員会

〒920 1192 金沢市角間町 電話 076 264 - 5200

ホームページURL <http://www.lib.kanazawa-u.ac.jp/>

電子メールアドレス postman@syswk.lib.kanazawa-u.ac.jp

読者の皆様からのおたよりをお待ちしております。

1999年10月1日発行

印刷：活文堂印刷株式会社